

## 目的は

### 1. バード・ストライク

夏によく見る光景ですが、不器用なセミが必死に飛び、木の幹などに止まろうとして墜落する様は可愛想ですらあります。しかしセミだけではありません。他にも起こっているストライク(衝突)があるのです。

鳥が飛行機や車など人工物に衝突することを、バード・ストライクと呼びます。打吹山のような自然界では起きませんが、人の生活圏、打吹公園や人家でも時々ある光景です。渡りの季節の秋遅く、夜、家に鳥が飛び込んできたという話を聞きました。夜間に移動する鳥が星を目標にしているという説もあり、灯火を目指すようです。灯台に多数の渡り鳥が衝突して死んだという例もあります。



シメ



背景の写った掲示板



シロハラ



向こう側が見える窓

打吹公園で起こっているのは、ガラスに衝突する例です。上写真のシメは掲示板のガラス、左写真のシロハラは窓に衝突したものです。ガラスを見る角度によっては、反射により空や木々が映り込みます。鳥はそちらへ行こうと飛び込みますから、<sup>くちばし</sup> 嘴から突っ込むこととなります。ガラスに対して鉛直に近い角度ですと、頭蓋を破損することになり、死につながります。写真のシメは事故が起こる瞬間を目撃しました。ガラスに対する角度が浅かったため頭蓋に対する衝撃が弱く、30分くらいすると動けるようになり、飛んでいくことができました。

反射だけでなく、2枚のガラス窓を通して向こう側が見える状況でも飛び込んでいくようです。飛龍閣の窓下に死んでいたシロハラはこの例と思われます。

### 2. 緑の枝

落葉樹は枯れ木となっていますが、枝に緑が残っているものがあります。常緑樹の方が、枝の緑はさらに長く残るようです。数えてみましょう。枝の1年間の伸長は、成長が止まった部分に近いほど葉の節間が短くなり、翌年の伸び始めと差がついていますから容易に判断できます。

常緑樹のアオキとヤブニッケイは7年、タラヨウが6年と長く、タブノキ2年、ヒサカキ1年と樹種によって差があります。落葉樹でもイロハモミジは、2年目まで枝が緑です。

サクラはすぐ茶色の樹皮になりますが、茶色部分を削り取るとその下には緑色の層があります(成長に影響にないところを少しだけにしてください)。緑色



ヤブツバキ 1年枝

ヤブニッケイ  
4年枝と5年枝

は光合成に必要な色素があるということです。葉の代わりをするほどの能力は考えられませんが、低木のアオキや垂高木のヤブニッケイが7年も枝の緑を維持しているということは、光の弱い環境で葉の補助をしようとしたと考えられます。高木になり林冠に葉を広げるタブノキやシイは、その必要がないのでしょう。草は茎も緑色で葉と同じ役目をしています。

植物もいろいろ知恵を出して今の姿になっていると思われますから、どの方式が良いか学ぶところがありそうです。